

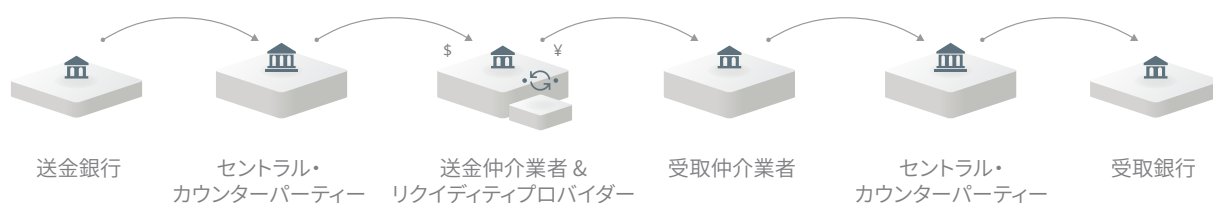
リップルでネットワーク 効果を生み出す

リップルおよび「価値のインターネット」においてXRPが果たす役割

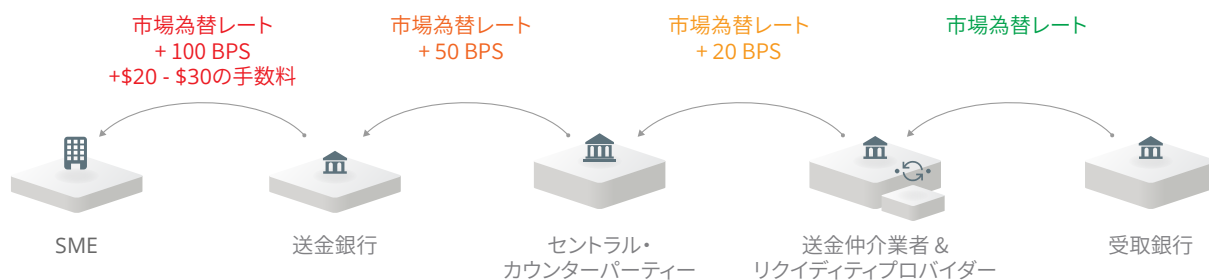
2015年11月

世界がリップルを求める理由

現在の決済は、21世紀の消費者の期待や、世界規模で広がる経済のニーズに追いついていません。決済は世界的な経済活動に必要不可欠です。最近の支払い方法は、モバイル、ソーシャル、マシン対マシンなど、さまざまな工夫により便利になってきていますが、実際のお金の決済は数十年前の古いテクノロジーから進歩していません。最近、国際決済を行ったことがある方はその状況を思い出してみてください。それは、何日かかりましたか。手数料と為替レートを認識していましたか。高くはなかったですか。相手先に届くかどうか心配ではありませんでしたか。国内決済でも手間は生じますが、国際決済となるとさらに多くの時間とコストがかかります。国際決済にこれほどの時間とコストがかかる原因は、旧式で非効率なインフラストラクチャーが使われていることです。現行のインフラストラクチャーはインターネットの登場前に作られたもので、国ごとに別々の仕組みになっています。現在も、決済ネットワークはサイロ化されたままです。コルレス銀行が、複数の仲介銀行と中央決済機関を経由して、各ネットワークの間を接続しています。仲介銀行を経由するたびに、コストが加算され、可視性が失われ、遅延や不履行のリスクが高まります。



コルレス銀行は流動性を提供するために大きな資本を必要とします。コルレス銀行には、国際的な業務が可能であることと、世界に対して本国通貨の流動性を保持することが求められます。このため、国際決済の流動性を提供できる銀行は世界中で10行にも満たず、為替レートには競争の原理が働きません。結果的に、各仲介銀行がレートを引き上げ、小規模な銀行や最終的な消費者に不利なレートが提示されることとなります。



イラストによる例の解説

統計からも状況は明らかです。平均で、国際決済には2日以上かかり、4パーセントは不履行になり¹、12パーセントでエラーが発生します²。これらを合わせると、年間で\$1.6兆のコストになります³。

決済が、つまり広い意味では「価値」が、今日のWeb上の情報と同じように、グローバルに、安全に、即時に、自由に移動できるようになることが期待されています。現在考えられているこのような「価値のインターネット」は、オープンなWeb標準 (Interledgerプロトコルなど) を基盤として構築され、その参加者には、既存の決済サービス提供者 (金融機関や決済ネットワークなど) に加えて、新しいタイプのサービス提供者 (分散金融テクノロジー企業など) も含まれます。このような標準と新しい分散金融テクノロジーが、世界の金融システムを、新旧のシステムを含めて接続します。これにより、「価値」は最小限の手間で国境を越えてシステム間を移動できるようになります。大規模な流動性の効率的な使用は、決済に関与するすべての人にメリットをもたらします。

決済インフラストラクチャーの基盤をIPベースのテクノロジーで最新化することで、「価値のインターネット」が実現され、個人や企業は、国際決済を、即時に、低コストで、安全に行えるようになります。また決済サービス提供者にも大きなビジネスチャンスがもたらされます。将来的には、「価値のインターネット」へのアクセスにより、金融サービスが整備されていない地域の人々も安価な決済システムを利用できるようになります。個人が新しい価値の創出源を活用したり、企業がより広い地域にサービスを提供したりすることも可能になります。さらには、テクノロジー会社が今は想像もつかないようなイノベーションを実現することもあるでしょう。「価値のインターネット」は指数的に拡大していく経済を支える基盤となります。

1 Robinson, Edward. "Former Goldman Exec Wants to Upend the Way the World Moves Money." Bloomberg: n. pag. Web. 7 Apr. 2015.

2 "Does Valid Bank Account Data Matter?" Experian: 8. Web. 2014.

3 World Trade Organization, Federal Reserve Financial Services, Institute of International Finance, Ripple Analysis

リップルが「価値のインターネット」に最初の灯をともし

「価値のインターネット」の実現までの道筋を考えるにあたって、まずは、各種のインターネットテクノロジーとインターネット自体の成功の道筋を思い出してみてください。これらは、供給側と需要側をマッチングすることでネットワーク効果を生み出しました。市場が繁栄するにつれて、急速に、効率化が進み、参加者が手にする利益が増え、そして有用性が高まりました。

あらゆる市場の始まりは鶏と卵の議論になりますが、需要がなければ、供給側はテーブルに着くことはなく、大きな変化を起こすこともないでしょう。しかし、実際の供給がなければ、需要が生まれるのが難しいのも事実です。よく例に挙げられるのが電話網です。素晴らしい発明ですが、最初の1台目の電話を手に入れた人にとっては、話す相手がいないので使いみちがありません。

では、リップルはどのようにしてネットワーク効果を生み出せるのでしょうか？

「価値のインターネット」の実現までの道筋を考えるにあたって、まずは、各種のインターネットテクノロジーとインターネット自体の成功の道筋を思い出してみてください。これらは、供給側と需要側をマッチングすることでネットワーク効果を生み出しました。市場が繁栄するにつれて、急速に、効率化が進み、参加者が手にする利益が増え、そして有用性が高まりました。

あらゆる市場の始まりは鶏と卵の議論になりますが、需要がなければ、供給側はテーブルに着くことはなく、大きな変化を起こすこともないでしょう。しかし、実際の供給がなければ、需要が生まれるのが難しいのも事実です。よく例に挙げられるのが電話網です。素晴らしい発明ですが、最初の1台目の電話を手に入れた人にとっては、話す相手がいないので使いみちがありません。

では、リップルはどのようにしてネットワーク効果を生み出せるのでしょうか？

まずは、どのような人たちが関与するのかを確認しましょう。どのような支払いを見ても、最終的には、同一の銀行または異なる銀行にある口座と口座の間での決済が必要になります。

VenmoやPaypalを使って友達や販売店に送金をする場合でも、最終的なお金の保管と移

動には銀行がかかわります。国際決済には流動性の供給が必要になりますが、現在は、前述のとおり、大手の国際銀行が流動性供給の役割を担っています。一方、リップルの市場では、決済の需要者である個人顧客および企業顧客に、銀行と第三の流動性供給者が決済サービスと流動性を供給します。

銀行にとってはどのような効果があるのでしょうか？

リップルは、歴史上初めて、決済のエンドツーエンドの可視性と確実性を確保したうえで、直接的かつ即時的に取引を行うことを可能にします。このような他にはない特長は、銀行にとって、新興企業に対抗する新しいビジネスチャンスとなります。

大手の国際銀行は、リップルによって、リスクを軽減し、運用コスト⁴を抑制することができます。既存の外国為替業務を活用して、収益性の高い少額決済サービス（送金や支払いなど）を提供するチャンスもあります。また、自行のワレットシェア拡大につなげることもできます。

中小規模の銀行は、リップルによって、何にも束縛されないまったく新しい国際決済モデルを構築することができます。リップルでは、他の銀行と国境を越えて直接的に取引をしたり、第三者のオープンな市場から流動性を調達したりすることが可能になります。また、新しい顧客を獲得するために競争力のある国際決済サービスを導入することもできます。

第三の流動性供給者にとってはどのような効果があるのでしょうか？

リップルは、その斬新な設計により、流動性供給の競争入札を可能にします。大手のファンド会社などは第三のマーケットメーカーとなり、国際決済のための流動性を供給してスプレッドで利益を生むというまったく新しいビジネスを始めることができます。これは、継続的な拡大が期待される新しいビジネスです。

個人顧客および企業顧客にとってはどのような効果があるのでしょうか？

リップルを採用した銀行は、個人顧客や企業顧客に、より優れた決済サービスを提供できます。迅速で、安価で、決済の状況を把握しやすいサービスが実現されるはずで

リップルは、銀行間の国際決済用途への対応という点では、今日の市場をリードする位置にいます。今この時期にリップルを導入する銀行は、決済処理をこれまでにないレベルで効率化できます。現在のところ、エンタープライズレベルのソリューションを提供できるのはリップルだけです。リップルは、現金を扱う十数以上の銀行で試用され、検証されまし

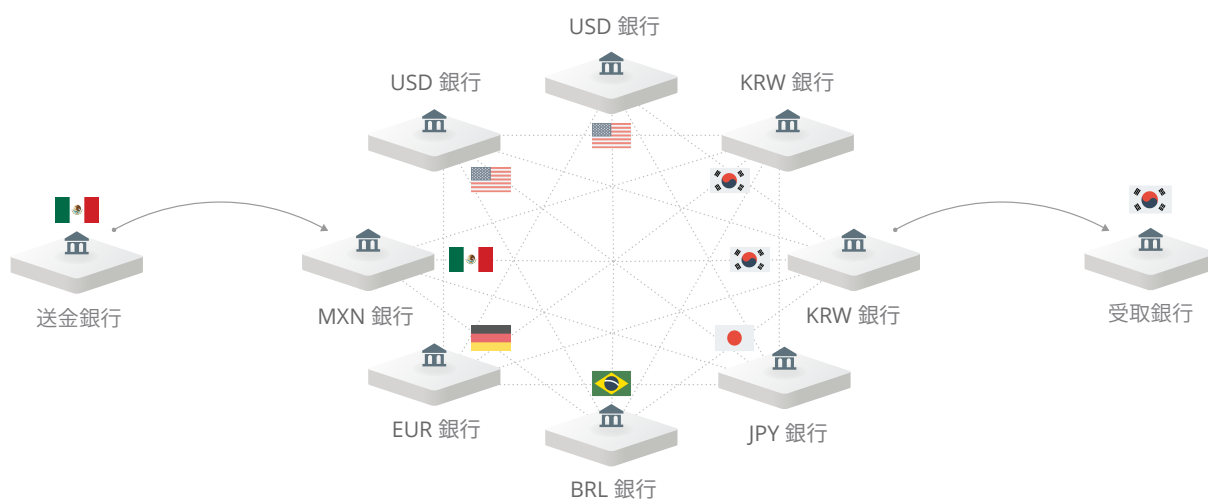
⁴ Operational costs include treasury operations, processing and liquidity costs.

た。リップルのソリューションは、リップルのコアテクノロジーを基盤としています。このテクノロジーは、複数通貨間決済に対応できるだけでなく、無制限の取引量の処理を可能にするため規模を拡大し続けることができます。

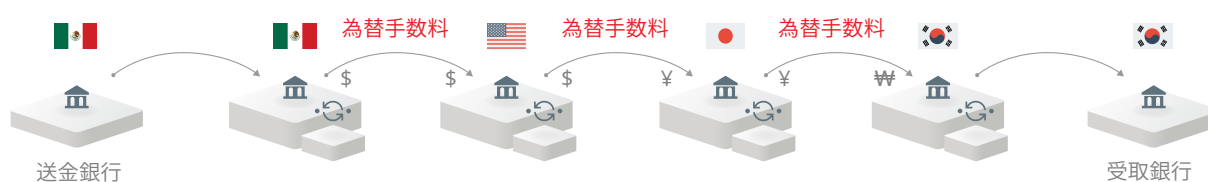
リップルでは、導入直後から、旧式のシステムでは不可能だった効率的な処理を実現できます。このため、最初の導入者はすぐに投資を回収できます。市場では、参加者が増え、市場の厚みが増すにつれて、利益が指数的に増大していきます。そして、リップル上で市場の厚みが増す過程を促進するのが、リップル独自のデジタル資産であるXRPです。

小さな火種を大きく育てる

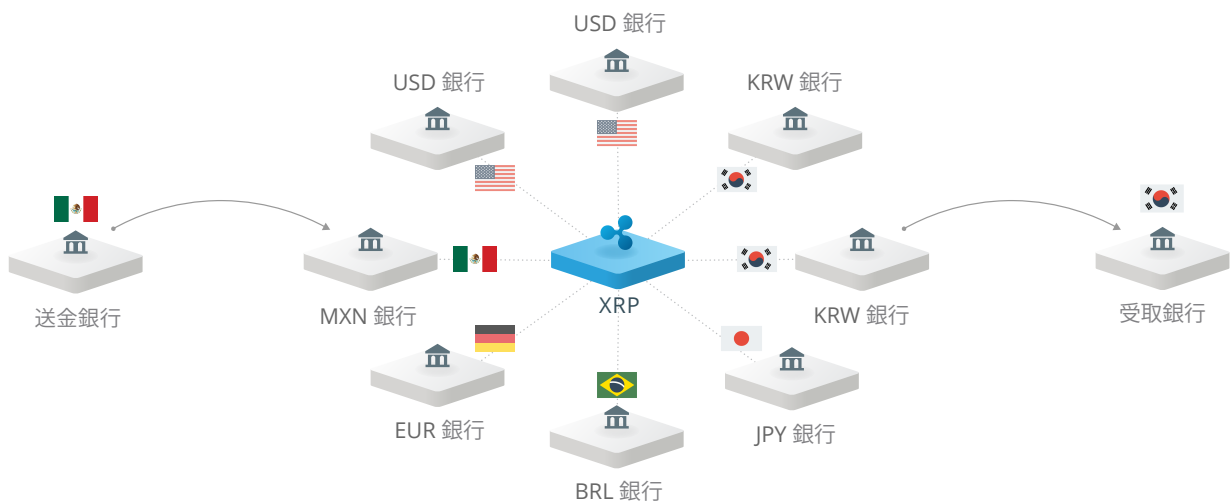
リップル上での流動性が拡大するにつれて、通貨の数や取引業者の数は増えていきます。この状態になると、1つの通貨取引を行うときに多くの選択肢が存在するようになります。流動性供給者は、通貨ごとに金融機関に口座を開き、その口座を維持する必要がありますが、この方法では資本も時間も多く必要となるので、流動性の厚みが増すことは期待できません。流動性の厚みが薄い市場では、タイトなスプレッドを提供することが難しくなります。以下の8つの銀行の例を見てください。この場合の流動性供給者は、すべての注文に参加するために、最大28通りの通貨の組み合わせに対応する必要があります。



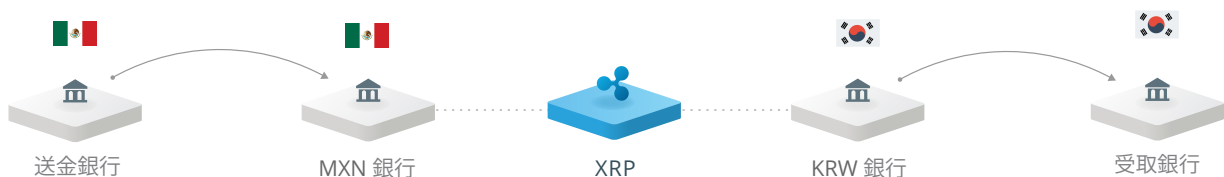
さらに、いくつかの選択肢、特にエキゾチック通貨を経由する長距離の決済では、多くの取引業者が関与し、それぞれが取引にコストを付加することになります。このような複雑な経路では、長距離の決済に競争力のある価格を提示することは難しくなります。



リップルは独自の方法でこの問題を解決します。その方法が、複数通貨対応の分散金融テクノロジーと、リップル独自のデジタル資産であるXRPです。XRPはどのような2つの通貨の組み合わせでも直接的に取引を行うことを可能にします。XRPを使うことにより、流動性供給者は運用コストを減らし、一部の通貨経路に特化することができます。米ドルと同様に、XRPを使用することによって、マーケットメーカーは流動性を確保する通貨の組み合わせは少なくしながら、多様な注文を引き受け、競争力のある為替レートを提示することが可能になります。米ドルと異なるのは、XRPによる取引は銀行口座を必要とせず、サービス手数料もかからないという点です。取引先のリスクもなく、運用コストが増えることもありません。この例の場合、マーケットメーカーは、8通りの通貨の組み合わせに対応するだけで、前の例の最大28通りの組み合わせに対応したときと同じ数の宛先通貨に対応できます。



XRPを仲介資産として使うことにより、複雑な複数通貨間決済を、エキゾチック通貨を経由する場合でも、取引業者を増やすことなく、コストを抑えて実行することができます。



XRPは、わずかなコスト増加で任意の2つの通貨間の流動性を供給できるので、流動性供給者にとって魅力的な資産です。XRPなどの新しい資産による仲介通貨のリスクを相殺できるよう、新しい資産の使用に対してはその導入初期に援助が提供される予定です。XRPを使うことにより、システム全体のマーケットメーカーが従来の通貨市場よりもタイトなスプレッドを提供できるようになります。これが、リップル市場の厚みが速いスピードで増していくことにつながります。

こうした環境は、国際決済のための流動性の供給を大手のコルレス銀行に依存している現在の中小規模の銀行にとって直接的な魅力となります。XRPを使ってマーケットメイクをする第三者から流動性を調達することによって、小規模の銀行は決済サービスに競争力の高い価格を設定して、新しい顧客を獲得することができます。

大手銀行は、初期段階では、流動性の調達は引き続き自行の為替業務から行い、処理の効率化のためにリップルを使うことができます。しかし、リップルの通貨市場が拡大するにつれて、大手銀行もリップルの通貨市場で流動性の入札や調達を行い利益を上げることができるようになります。

まとめ

分散金融テクノロジーの登場によって、「価値のインターネット」が徐々に形成されつつあります。CEOのChris Larsenは、「もう後戻りできない状態まで進んでいる」と言っています。他のあらゆる市場と同様に、「価値のインターネット」にも鶏と卵の議論はありますが、供給側と需要側の双方にとって魅力的なものであるという事実には変わりはありません。

リップルは、他にはない特長を持つ分散金融テクノロジーとして、「価値のインターネット」でネットワーク効果を生み出し始める重要な役割を担っています。市場においては、リップルによって、流動性供給者（銀行および第三のマーケットメーカー）と流動性需要者（決済を必要としている個人および企業）の双方が現在の国際決済の方法から段階的に進歩していくことが可能になります。

- 大手の国際銀行は、運用コストを削減し、ワレットシェア拡大を図ることができます。
- 中小規模の銀行は、新しい顧客を獲得するために、競争力のある流動性を直接利用することができます。
- 第三のマーケットメーカーは、国際決済のための流動性供給という新たな市場で競い合うことができます。
- 消費者である個人や企業は、迅速で安価な決済サービスが利用できるようになり、決済の状態も把握しやすくなります。

第三の流動性供給者の登場により、決済の環境は大きく変わり、リップル市場の拡大は加速されます。流動性の供給に参加する業者が増えるにつれて、市場の競争は激しくなります。そして、競争によって導入と参加がいつそう拡大し、ネットワーク効果が生み出されます。

デジタル資産であるXRPは、スプレッドを縮小し、市場の厚みを増すための便利な道具です。流動性供給への参加を促すため、リップルでは、XRPを使って通貨取引や決済に有利なスプレッドを提供する業者を対象に、XRPの計画的な配布を予定しています。

供給側と需要側の双方に確実なメリットをもたらすリップル市場は既に発展しつつあります。国際決済サービスにおいて、大手銀行は処理を効率化し、中小規模の銀行は第三の流動性供給者を活用しています。このようなネットワーク効果が生み出されるにつれて、リップルとXRPは「価値のインターネット」の発展に大きく貢献する中心的な役割を果たすこととなります。

リップルについて

リップルは、グローバル決済ソリューションを提供します。これはつまり、現在情報が交換されていると同様に、世の中における価値の交換を可能にし、価値のインターネットを招来します。リップルソリューションは銀行が直接送金できるため、コルレス銀行を通す必要はなく、送金コストの低コスト化を可能にし、更に、リアルタイム取引決済を確実にします。世界中の銀行は、海外送金サービスを改善するため、また、価値のインターネットの基盤である金融機関やマーケットメーカーの世界中に広がっていくネットワークに加わるためにリップルとパートナーシップを組んでいます。

リップルはサンフランシスコ、ニューヨークとシドニーに事務所を持つベンチャー企業。価値のインターネットの主義者として、[連邦準備制度理事会のFaster Payments Task Force](#)に所属し、また[W3CのWeb Payments Working Group](#)の共同議長を務める。

お問い合わせ先

法人向けXRPの販売、またはマーケットメーカーに関するご質問はmm@ripple.comまでお問い合わせ下さい。

XRPについての詳細はripple.com/xrp-portalをご覧ください。

Ripple
300 Montgomery Street
Suite 1200
San Francisco, CA 94104
USA